

ここに、「上部消化管腫瘍における先進的内視鏡治療の進歩」と題した特集をお届けする。2020年度の診療報酬改定はコロナ禍に掻き消されひっそりで行われた感があるが、上部消化管腫瘍の内視鏡治療領域においてはいくつかの重要な改定がなされた。胃・十二指腸ESDが胃ESDと十二指腸ESDに分離し十二指腸ESDが増点されたこと、胃LECSが増点されたこと、十二指腸LECSが新たに保険収載されたこと、などである。これらの改定を受けて、上部消化管腫瘍に対して日常診療で行われている新興技術も含めた内視鏡治療を整理し、本領域における今後の展開に思いを馳せていただく機会として、本特集を企画させていただいた。With コロナの混乱が続く大変お忙しい中、素晴らしい論文を執筆くださった先生方にこの場を借りて、心より感謝、御礼申し上げます。

上部消化管腫瘍の内視鏡治療は、1968年の、常岡健二先生の内視鏡下胃ポリープ切断採取法の開発、丹羽寛文先生の高周波電流の内視鏡下生検への応用から端を発する。今となっては当たり前のように行われている小ポリープに対するポリペクトミーも、当時は十分な機器も知見もないなかで、薄氷を踏む思いで開始されたものと想像する。丹羽寛文先生は1986年1月の「臨牀消化器内科」の創刊時から永らく編集委員を務められた。ご存命であれば、本特集号を手にとってなんとおっしゃられるであろうか？

ポリペクトミーの開発から約50年、EMR、ESD、LECSの開発から、それぞれ約40年、約20年、約10年が経過した。次に市民権を得るのは、内視鏡的全層切除技術であろうか。ロボットによる管腔内視鏡治療技術であろうか。先人たちが繋いできた内視鏡治療の歩みを止めてはならない。

(藤城 光弘)

臨牀 消化器内科® Vol. 36 No. 1

©2020年12月20日発行

定価(本体3,000円+税)

年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2020, Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所／日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 03-5226-2791